



Honda Design

Dynamism and Functionality

ダイナミックなモノフォルムでご好評をいただいた先代フリードのスタイリングを、Hondaが拓いたコンパクトミニバンというカテゴリーの明日を見据えてどのように進化・発展させるか。新型フリード / フリード+が選択したエクステリアデザインのテーマは「Dynamism and Functionality(機能の詰まった躍動感)」でした。小さなボディーの中に多彩な能力(ファンクショナリティー)が凝縮され、さらにキビキビと軽快な運動能力(ダイナミズム)を持っている。表現したかったのは、ひと目でそんな印象が残るような大胆なフォルムと繊細なディテールです。

コンパクトミニバンらしさのその先へ。

最大3列シートのクルマとして、広そうに見えることは大切なこと。けれども、多人数での使いやすさばかりを強調するのではなく、メリハリのきいた凝縮感、走り予感させる塊感、さらにひとりで乗るのもいいかなと思わせるパーソナル感など、いわばコンパクトミニバンらしさのその先にある、ドライバーズカーとしての魅力を磨き上げる方向で作り込みました。また、全タイプ同一のワンスタイリングで実現した、3列シート車、2列シート車、福祉車両という驚きのワイドバリエーションも、大きな特長のひとつです。

「いい顔」をめざしたフロントビュー。



フロントビューは、Hondaのアイデンティティともいえる「ソリッド・ウイング・フェイス」。優しさや強さなど、ある特定の方向性を強調するのではなく、より多くの人に「いい顔してるね」といわれるデザインをめざしました。ボンネットは安心感を強めるためにボリューム感を出し、良好な視界を確保するために左右をタテ方向に広げたフロントウィンドウも、表情に個性と勢いをプラスします。

伸びやかさと適度な緊張感を感じさせるサイドビュー。



ボリュームアップしたフロントまわりから続くサイドは、面の曲率変化にこだわり、豊かでありつつ軽快な表情を演出。適度な緊張感を持たせた伸びやかなサイドラインを受けとめるリアパネルも、張りのある曲面を採用しています。またウィンドウの広いグラッシーキャビンを実現するために、フロントクォーターウィンドウを追加するなどの工夫も加えました。

機能性とパーソナル感を表現したリアビュー。



クルマのコンセプトが意外に明確に現れるリアビューは、ミニバンの機能とよりパーソナルなクルマとしての存在感を両立させることをめざしました。先代以上の大開口テールゲートで機能表現しながら、全体のシルエットは、箱型から下へ行くほどゆるやかに広がる安定感ある形状へ。よりドライバーズカー的といえる横基調のコンビネーションランプとハイマウントストップランプ、縦型リアリフレクターとのバランスにもこだわり、踏ん張り感を強調しています。